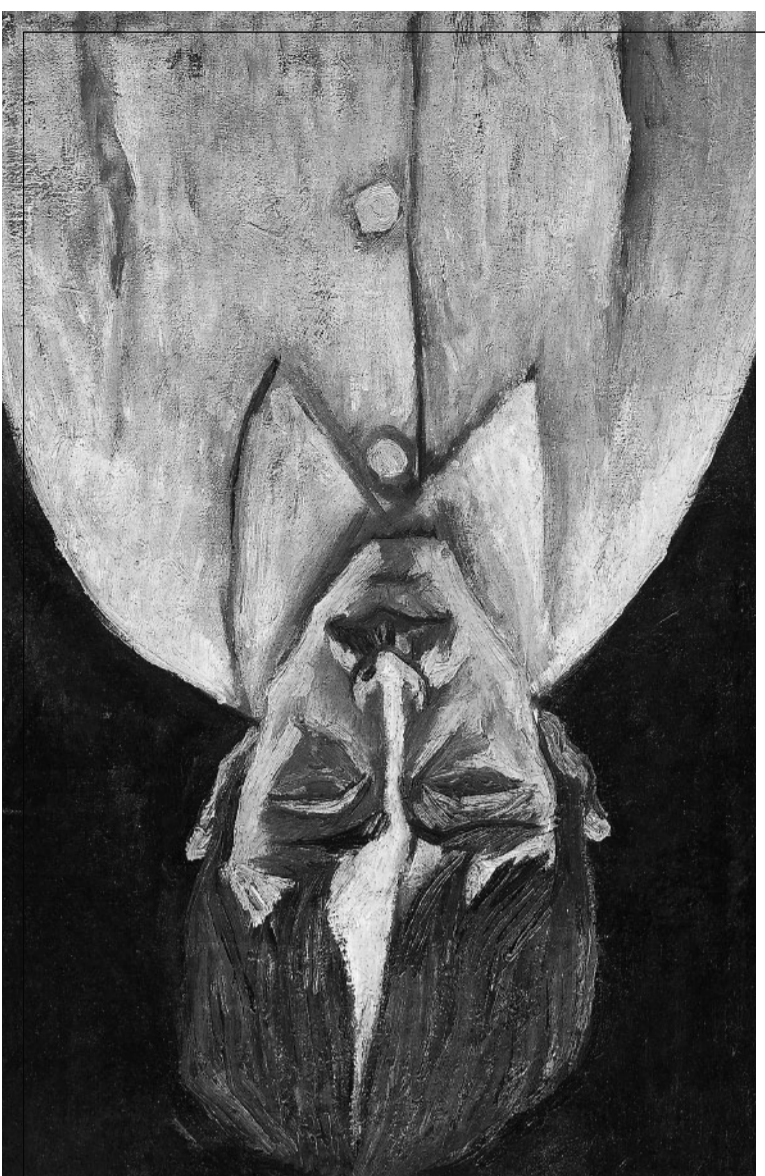


背景の暗い色と洋服の白。作者の気持ちが表れているのはどこだろう。

僕は、自分をたくさん描いた。何枚も、何枚も。そうすることで、自分をどう描けばいいのか、自分とは何なのか、わかる気がしたんだ。自画像は、その時の自分の気持ちを表す「鏡」のようだね。



《雲のある自画像》  
萬鐵五郎



君は、どんな気持ちで雲を写したんだろう。

4 型を抜く

ぼわんどよん

どんな気持ち？



《雲のある自画像》について

萬鐵五郎の活躍した大正期には、画家たちは自己の内面を吐露するような新しい表現を探し求め、多くの自画像が制作されました。そのような時代にあって、萬もまた、数多くの自画像を描いた画家として知られています。特に、東京美術学校を卒業した1912（明治45）年頃には、ゴッホ風の自画像やフランス後期印象派の影響が見られる《点描風の自画像》（図）、未来派の影響を受けた《赤い目の自画像》など、自分自身をモデルにして、当時矢継ぎ早に日本にもたらされた西洋の新しい美術表現を試しています。

暗い背景に浮かび上がる陰鬱な表情の人物。頭上に浮かんだ雲は、来るべき未来への不吉な暗示か、または作者の焦燥感の象徴でしょうか。一心に自己の内面と向き合う画家を表したこの作品は、ドイツ表現主義の影響が指摘されています。当時最先端の絵画に対し、そのスタイルのみを真似するのではなく、自身の中に取り込もうとする若き萬の決意とその格闘ぶりが表れた作品と言えるでしょう。



《点描風の自画像》1912年

萬鐵五郎《雲のある自画像》1912-13年  
画布、油彩 59.5×45.5cm